

みつくら

令和 6年 1月15日 第402号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

8区庚申講が解散

大瀬川に最後まで残っていた8区の庚申講は去る11月の大地渡竈家で開かれた講中を最後に幕を閉じ、これによって大瀬川から庚申講が完全に姿を消した。解散時の会員は板垣寛さん、板垣幸寿さん、菅原銀一さん、板垣光善さん、板垣章郎さん、畠山勝榮さん、畠山信幸さんの7名であった。大瀬川の庚申講は、札立場家に、田中家から分家した当時の文久年間には庚申講を拝んでいた記録があった(菅原雄一さん談)と云うのでそれ以前から拝んでいたと思われる。

庚申講・・・人の体内には生まれながらにして三尸(さんし)の虫がいて、日夜人の行いを監視している。60日毎に巡ってくる庚申(かのえさる)の日の夜、眠っている人間の身体から抜け出して、その人間の犯した罪を天帝に報告するので人の命は縮まると考えた。庚申の夜は呪文を唱え、念ずる事によって三尸の虫が天帝に行かないようにした(板垣文治文書より抜粋)と伝わっていた。

中央長寿会が芋の子会

コロナ禍で飲食会を自粛していた大瀬川中央長寿会(菅原得之会長 会員34名)が11月8日に4年ぶりとなる「芋の子会」を金矢温泉で開催し18名が参加した。

午前中は同グラウンドでグラウンド・ゴルフ大会を行い、久しぶりの競技を楽しんだ。その後の芋の子会で菅原会長は「自粛、自粛と長い間懇親会が開けなかったが、5月8日からコロナが5類感染症とインフルエンザ並となったので開催することができました。この期間に考えさせられたことは、懇親の場がいかに大切なのか良く判りました。今日は、皆さんには懇親を深めていただければと思っております」と挨拶し、久しぶりの親睦に楽しいひと時を過ごした。

旦乃花家に熊が出没し捕獲

11月15日午前8時40分頃、親離れしたくらい的小熊が旦乃花家の柿の木に登っていたのを隣の板垣皆美さんが見つけ警察に通報。パトカーや市職員、猟師が駆けつけ爆竹を

鳴らし、熊が西側の杉の木に移動したところを捕獲網で捕らえた。その後、捕獲した熊は葛丸林道の奥に放された。

国営土地改良事業説明会が行われる。

去る11月27日に大瀬川振興センターで山王海土地改良区による「国営土地改良事業」の説明会が行われた。この事業は「ダム設備の老朽化に伴う施設の改修や小型水力発電の設置を行いながら、全国的に珍しい親子ダムの特性を活かした洪水防止を目指すもので、受益者負担は生じない予定」と説明があった。

当日は63名の受益者が参加し、説明後には全員が事業施行申請同意書に署名していた。なお、欠席者には役員と総代が改めて訪問し説明の上、同意を頂く予定となっている。

今年も全戸訪問を行う

交通安全協会大瀬川分会(板垣吉彦会長)では、恒例となっている「飲酒運転撲滅啓発呼び掛け全戸訪問」を12月10日に実施した。当日は、太瀬川活性化会議・交通安全母の会・防犯協会大瀬川支部・交通指導員・各区自治公民館の協力団体を含めた27名が参加した。

配布物はA3で「一杯で消える未来とけせぬ罪」とA4の「冬季の交通事故防止」のチラシ、そして今年には交通標語が書かれた卓上カレンダーを、防犯協会からは防犯チラシ2部のほか「辰年もまだまだ続く熊注意!!」と書かれた熊よけの鈴1個を持ち、15チームに分かれ各戸に配った。卓上カレンダーは、各公民館と消防屯所にも2部ずつ配布している。

菅野さん全国出場

9区の菅野裕二さんは、去る12月10日に花巻市体育館で行われた第75回東京卓球選手権大会若手県予選会の年代別(シックスティの部)で入賞し、3月に東京体育館で行われる全国大会への出場が決まった。「大会までの間は、若くはないのでケガをしない程度の練習を行って全国から来る選手に挑戦したい」と話していた。ご健闘を期待したい。

たんぼぼの会でクリスマス会

たんぼぼの会(熊谷幸子会長)では、12月20日に「クリスマス会」が行われ14名が参加した。久しぶりに会って、たんぼぼの会と第一老人クラブが作った歌集(昭和の思い出の歌・愛唱歌)の中から数曲選び合唱したり談笑して楽しく過ごした。

大瀬川運動公園プールを解体し更地に

令和5年9月に着工した大瀬川運動公園プールの解体工事は大小プール、消毒槽、更衣室、機械室もすべて撤去され、12月4日に工事を完了した。

昔、大瀬川小学校プールが出来る前は、7区では山祇神社の葛丸川で、8区は葛丸川の「四十淵」という場所で、9区は富

沢橋付近(父兄が石を積んで堰き止め)で子供達が泳いでいたものだ。

大瀬川小学校のプールは、昭和35年5月に造ったのが始まり。プールの水は町水道で、PTAが塩素を投入したり、水の入れ替えなどしながら管理した。昭和45年頃から漏水が多くなり町で修理したが、昭和47年小学校の統合問題とともにプールの存続が危ぶまれた。大瀬川小学校PTAの「統合だからこそ大瀬川にプールが必要だ」という熱意により、昭和49年12月14日に大瀬川小学校プール建設促進委員会を組織し、昭和50年7月に竣工と同時に大瀬川小学校プール開きとなった。数年後には濾過装置を設置した。

大瀬川運動公園プールは濾過装置の故障やプールの老朽化で令和元年度で使用を終了し、令和2年3月31日付けで花巻市教育委員会が閉鎖した。

大瀬川運動公園プールは、親にとっては仕事のやりくりをしながらのプール当番など、時代の流れとともに大変な面も生じつつ、試行錯誤しながら管理運営を続けてきた施設でもあったが、子供たちの健全な育成に大きな役割を果たしてきたことは間違いないだろう。

プール跡地は更地となったが、地域として有効な活用の仕方を考えていきたい。

元旦祭が厳かに行われる

山祇神社と天満宮では、12月12日に年越し祭を、続いて元旦祭を1月1日の朝5時から天満宮、6時には山祇神社に移動し、大瀬川神楽の音色のもと、新年の安寧を願って直町宮司と責任役員・総代による神事が厳かに行われた。

例年は雪があるのだが、今年は全く雪がなく、年越しの朝は神社関係者でそれぞれの境内の杉の葉の清掃を行ったが、夜中に風が吹いてまたもや杉の葉だらけの中での初詣となった。役員から「次は2月11日に春祈禱祭とどんと祭を行うので、昨年の御札やしめ飾りなどを当日の午前中に山祇神社境内へ持ってきて頂きたい」と説明があった。

厄年の祈禱が変更される

昨年の12月付けで「令和6年厄年にかかる御札の希望について」が地区民へお知らせとして回っている。

昨年までは、前年の本厄だった方々を中心に年祝い実行委員会を組織し年祝いを祝っていたが、年々年祝いの参加減少により実行委員会を組織することが困難になったため、令和6年からは山祇神社が春祈禱祭を行う2月11日に、希望者に厄年祈禱も行い、御札を配布することに決まった。今後は、山祇神社で毎年12月頃に厄年年齢を添付した「厄年祈禱申込み」を配布し取りまとめ、祈禱と御札の配布を行う事となった。

表彰

花巻市消防団施設点検 「優秀賞」 第13分団第2部

みつくら

令和 6年 1月15日 第402号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川 10-45-2
 大瀬川振興センター 電話 45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

「土曜わくわくタイム」で菅原さん

12月2日の午前中に石鳥谷図書館の2階から多くの親子が降りてきた。その中に菅原千恵子さんがいた。菅原さんは「話っこクラブ」の一員として子供達に紙芝居やお話などのボランティア活動をしている。「話っこクラブ」は嘉六の菅原和子さんと八重樫喜久さんが立ち上げた。平成7年から令和5年現在まで32年間毎月第1土曜日に「土曜わくわくタイム」（石鳥谷図書館主催）を開催している。

大瀬川の団員も出初式

花巻市消防出初式が令和6年1月7日に市文化会館で、分列行進は上町で行われた。大瀬川関係者では統監部付は菅原浩孝石鳥谷総合支所長、副指揮者は板垣光善市消防団副団長が担った。午前10時からの式典に先立ち能登半島地震の犠牲者に黙祷を捧げ冥福を祈った。その後、開式の辞、国旗に敬礼、統監（上田東一花巻市長）に敬礼、統監式辞、来賓祝辞（藤原伸花巻市議会議長、及川聰花巻警察署長）、来賓紹介、表彰、閉式の辞の順で行われた。午前11時過ぎから分列行進が岩手銀行花巻支店前で、午後0時過ぎから鳥谷崎神社で防火祈願が行われた。大瀬川関係者で表彰されたのは、7年間無火災で第13分団第1部が優良竿頭級表彰を、功績章が玉山教班長（20年7ヶ月）、精練章と勤続章が菅原亮団員（10年）、功労章が板垣雄一郎長（22年）、功績章が熊谷信人団員（7年4ヶ月）であった。

「親子で楽しめるボードゲームカフェ」を開催

1月6日にオレカフェプロジェクトの「こどもお楽しみフェスタ・あそびカフェ」が大瀬川構造改善センターで行われた。この行事は、地域づくりサポート事業オレカフェ内で提案があったもので、子供達を対象に「正月にみんなで遊ぼう」を目的にオセロ・ビンゴ・コマ回しなどを準備した。参加した子供達にはお汁粉をご馳走して好きな遊びをさせたが、オセロゲームでは対戦した大人が負ける場面もあった。数年前には雪上運動会があって、お汁粉を食べたりしたことが思い出された。

「新春のつどい」が開催される

松の内の1月6日、大瀬川振興センターの玄関前には板垣幸寿さん寄贈の門松を見ながらホールに入ると、地域づくり推進委員達（大瀬川活性化会議）の出迎えを受け、紅白の餅とお茶を頂いて椅子に座ると、窓側には紅白の幕があり舞台には「大瀬川新春のつどい」の看板に折り紙で作った大きな花が飾られていた。

今日は、スコップ三味線のひょっとこ太郎さんと日本舞踊の紺野華昇さん、そして歌謡曲の早池たかしさんの三本立ての演芸会。挨拶で、熊谷秀夫活性化会議会長から「新年早々、石川県で大きな地震がまた、羽田空港では航空事故と大きな事件がありました、今日だけは忘れて楽しんで下さい」と挨拶があった。

まず始めは、ひょっとこの手ぬぐいを被ったひょっとこ太郎さんが出て司会をつとめ、紺野華昇さんの新舞踊「俺の出番はきつとくる」が披露された。続いて、早池たかしさんがカバー曲「viva la vida（五木ひろし）」「南部酒（小金沢昇司）」の2曲を歌い、次にオリジナル曲として「盛岡の女（ひと）」と「桜梅桃季の旅」を披露した。この後には、紺野華昇さんが「津軽の花」を踊った。

ここでやっとスコップ三味線第七回世界チャンピオンで師範ひょっとこ太郎さんが登場し「千恵っこよしゃれ」の演奏が披露された。太郎さんは、スコップの柄でいかにも音調整するふりをしたり、演奏中も弦を押さえたようにするので、本当に三味線を弾いてように見え、観客からも大きな拍手が起こった。三味線の音で盛り上がった後、華昇さんが舞台前の広い場所でダイナミックに「海峽ふたり船」を披露した。

ここまで、あっという間の1時間がすぎて、再び太郎さんが登場すると、スコップ三味線の講習会をするという。会場から5名（菅原正勝さん、菅原新一郎さん、菅原富男さん、板垣博文さん、菅原昭悦さん）が選ばれ演奏の仕方を教わった。スコップの構えは斜め45度、バチ（栓抜き）のさばき方は「カン、カ、トン」の3種類。短い練習後には演奏曲に合わせて全員で弾くことになったが、菅原富男さんが演奏に乗って会場を歩き出すと、太郎師匠から「今まで講習会したども、会場を歩いた人は初めてだ」と、会場が大笑いとなり講習会に出た5名には家元と師範連名の「講習修了証」が渡された。最後は、「津軽じょんがら節ひょっとこバージョン」の圧巻な演奏が披露され、会場から大きな拍手で終了となった。この日は千鳥苑からも参加があり70名ほどが楽しいひとときを過ごした。

今年のスコップ三味線世界大会は11月に北上市で開催予定なので、是非観覧に来てほしいとコマースももあった。

訃報

○前畑家の畠山ユリ子さんは12月16日に86歳で亡くなりました。畠山さんは紫波町片寄上久保の出身で、つい1ヶ月前まではお元気でしたのに残念でなりません。ユーモアに満ちた話し方で、その場を和やかにして笑いを誘い、皆を明るく導いていただいた方でした。

9区の老人クラブでの輪投げ大会では3回（平成23、25、28年）もテレビ岩手で放映された時の姿を懐かしく思い出します。畠山さんは料理が趣味で、9区の集まりにもってこられた煮物や漬物の味はみなさんから評判でした。

他に旅行も趣味で、仲良しの藤原玉子さん、菅原文子さん、菅原恵子さん、畠山チヨミさん達と積み立た旅行で沖縄や黒たまごで名高い大涌谷（箱根）など数多くの旅行でもに楽しまれた方でした。

平成3年には大瀬川婦人協議会婦人部9区長、平成8年には石鳥谷町保健補導員など担われました畠山さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○工場（こうば）家の小笠原チヨさんは、12月25日に89歳で亡くなりました。小笠原さんは山ノ神家（現在の山祇神社駐車場）のお生まれで、大瀬川小学校を卒業後、中学校が開校前だったので自宅で農業を手伝っていました。

14歳の時に小屋場に猪原医院が開業したのに伴い家事手伝いとして3年間働き、猪原医院（猪原正持院長）が昭和26年に沢内村の猿橋に開院した後は、小笠原製材所（現在の自宅が母屋で、東側に製材所）に勤務し「ななとり（製材で引き手）」も担うなど、小笠原正二さん（安太郎の弟）、畠山誠一さん（万蔵家）、畠山和久さん（万蔵家・誠一の弟）板垣三五郎さん（山羊屋家）と共に働き製材所の経営者の小笠原安太郎さんと結婚している。

ご主人の長年におわたる介護で町から表彰も受けられ、その後は秋柴重機の従業員として勤務し、秋柴社長が亡くなるまで秋柴家でお手伝いをしていました。亡くなる一年前までは毎朝の散歩を欠かさずしていたのも懐かしい思い出となりました。「そでがんす」と話題に答えられて、皆さんに親しまれました小笠原さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

令和6年の正月は全く雪もなく暖かい日々と思っていたが1日の午後4時頃に石川県能登地方でマグニチュード7強の地震が発生と同時に津波警報が発令され正月番組は一斉に臨時ニュースに切り替った。その後も続々と入る地震速報の中、火災のようすもニュース画面に出ていた。翌日は現場へ報道が入り、直下地震の怖さを報道していた夕方のテレビ画面に羽田空港の滑走路で飛行機の衝突と火災がまるで映画のイチシーンのように流れ、正月帰省の足を奪っていた。

その後も、直下地震のためか能登地方の道路が寸断され救助物資が中々届かず孤立状態が目立っている。13年前の東日本大震災よりも範囲は狭いが被害が多めで復旧の予想が見出せない状況となっている。

訂正（12月15日みつくら）

1月5日の消防演習で「分裂行進」→「分列行進」「放水訓練には、第1部も第2部も参加しなかった」→「第1部は火災想定訓練に第2部は放水訓練に参加した」でした。